


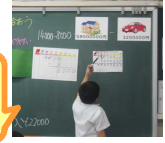


第3学年 算数科「一万よりも大きな数のクイズマスターになろう」 学習指導者 矢野 利幸

<p>主張点</p>	<p>単元終末に大きな数クイズ大会を設定し、束の模型や位取り板を用いて数の比べ方や表し方を考えるクイズを繰り返し行うことで、納得と適用の場を確保し、数の見方の広がりを実感しながら、意欲的に学習を進めていけるようにしました。</p>
<p>前時までの学び</p>	<p>「1000までの数」の既習から学習計画を立て、数字と数の束を対応させて答えるクイズや、「数みる板」を使って数の捉え方を説明し合うクイズを出し合いながら、万の単位の大きな数の比べ方や表し方について学んできました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習計画を確認しながら本時の課題を捉える。</p>	<p>「大きな数のクイズマスターになろう」という目標に向かって、補助黒板を用いて本時することを確認しました。クイズをつくるために、できるようになりたいことを話し合うことで、課題設定の妥当性を感じられるようにしました。</p>  <p>今日は、大きな数の計算を花丸にします。クイズを出し合う前に、千や万の大きな数の計算を完璧にしないとイケないと思います。自分で計算を解いて考えます。</p> <p>学習課題：大きな数の計算の仕方を考え、クイズ出し合おう</p> <p>〈課題解決中〉 2 数みる板を使って、どんな数の見方をしたのか交流する。</p> <p>数みる板に自分の考えをかき、それを使ってどのように数を見て計算したのか交流しました。書き込む数字によって互いの考えを視覚化し、筆算と1000のいくつ分で考える方法との違いに気付けるようにしました。</p> <p>〇をかきすぎだと思うよ。〇を置いて、14+8だけ計算した方が簡単だと思うよ。</p> <p>〇を置いてというの、前の勉強と同じように、1000のいくつ分になるかを考えたんだと思います。</p> <p>3 大きな数クイズを作り、問題を出し合う。</p> <p>1000のいくつ分の考え方をまとめた後、生活の中の大きな数の例を示し、クイズづくりに取り組みました。クイズを通して数の相対的な見方への理解を深められるようにしました。</p> <p>58000000円の家と、3200000円の自動車の値段の違いを答えましょう。どのように考えたか説明すると、…。</p>   
<p>〈課題解決後〉 4 本時の学びを振り返る。</p>	<p>本時の課題解決の過程を振り返り、今日のMVPが誰かを考え、紹介し合いました。誰の発言が自分の学びを深めるきっかけになったのか考えることで、自分の学びを振り返って自己の変容を捉える機会となるよう設定しました。</p> <p>今日のMVPは〇〇さんです。1000がいくつと説明してくれたので、考えが広がったからです。もっと大きな数でも試したいと思いました。</p>
<p>考察</p>	<p>相違点を見付けた後、正確・簡単・いつでも使える計算方法を考える等、対話の観点を明確にしておくことで、より主体的で対話的な学びを促すことができたと考えます。また、位取りと数の束をつないで意識できるよう板書を構造化することで、数の相対的な見方についての理解を深められたと考えます。</p>